

安保法案に反対するアピール

幸徳秋水は、人間の自由・平等・博愛を掲げた、時代の先覚者でした。日露戦争に対しては、非戦論を唱え、世に警鐘乱打しました。

「われわれは絶対に戦争を否認する。これを道徳の立場から見れば、おそろしい罪悪である。これを政治の立場から見れば、おそろしい害毒である。これを経済の立場から見れば、おそろしい損失である。社会の正義は、これがために破壊され、万民の利益と幸福とは、これがためにふみにじられる。」(平民新聞、1904年)

にもかかわらず、日本は、その後も軍国主義の道を突き進み、昭和20年、ついに国土は焦土と化し、国民は塗炭の苦しみを味わい、また周辺諸国へも多大な被害を与えることになりました。

こうした反省に立ち、戦後日本は、二度と戦争をしないとの決意を、新しい憲法に刻み込んで再出発し、平和国家の道を歩んできました。

しかし、安倍政権はここに来て、長年の議論の積み重ねで集団的自衛権は認められないとされてきたこれまでの憲法解釈を、突然かつ一方的に変更し、その安保関連法案を今国会に提出しています。

立憲主義をないがしろにする憲法違反のこの法案は、日本には全く関係がない、他国が起こした戦争に対しても日本が参戦することを認めることで、再び日本を戦争する国へと変えようとするものであり、100年以上前、幸徳秋水が警告した戦争国家に、日本を舞い戻らせるものであります。だからこそ、各種世論調査でも国民の多数がこの法案に反対と答えています。

こうした国民の声を無視することは、民主主義を否定することであり、戦前の強権政治の復活につながるものです。

幸徳秋水の事績を学び研究するわれわれとしては、歴史の誤りを繰り返すことになる、このような事態を看過することができません。

政府に対して、安保法案の撤回を強く訴えます。

2015年7月8日

幸徳秋水を顕彰する会
会長 久保知章